

## トビウオ通信 (R7第6号)

### 《令和7年度マアジ新規加入量調査結果》

マアジ0歳魚(令和7年生まれ)の新規加入量調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は、その年に生まれたマアジの加入状況を早期に把握するために、平成15年以降実施しています。

参画機関は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産資源研究所)、鳥取県水産試験場、山口県水産研究センター及び島根県水産技術センターです。

#### 結果の概要

- マアジ0歳魚は、適水温帯(16~18℃)が広がる対馬海域(TS)から隠岐海域(OK)で多く採集された。
- 調査結果を基に計算した令和7年のマアジ0歳魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、平成15年を1.00とすると0.65となり、昨年(1.07)を下回った。
- 令和7年のマアジ0歳魚の来遊量は、「前年を下回る」と推測される。

#### マアジ0歳魚の採集結果と分布状況

令和7年5月19日から6月20日にかけて、長崎県五島列島沖から鳥取県沖までの海域における103地点でマアジ0歳魚を対象とした中層トロール網を用いた調査を実施しました。その結果、尾叉長2~4cmサイズを主体に合計16,566尾(1曳網あたりの平均採集尾数:161尾)が採集されました(図1)。

採集されたマアジ0歳魚は、適水温と考えられる16~18℃（水深50m）の水温帯に多く分布していました。分布範囲は、例年同様、五島列島海域（GT）から鳥取海域（TT）までの広範囲に及び、CPUE（1曳網当たりの採集尾数）は、対馬海域（TS）から隠岐海域（OK）にかけて多い結果となりました。

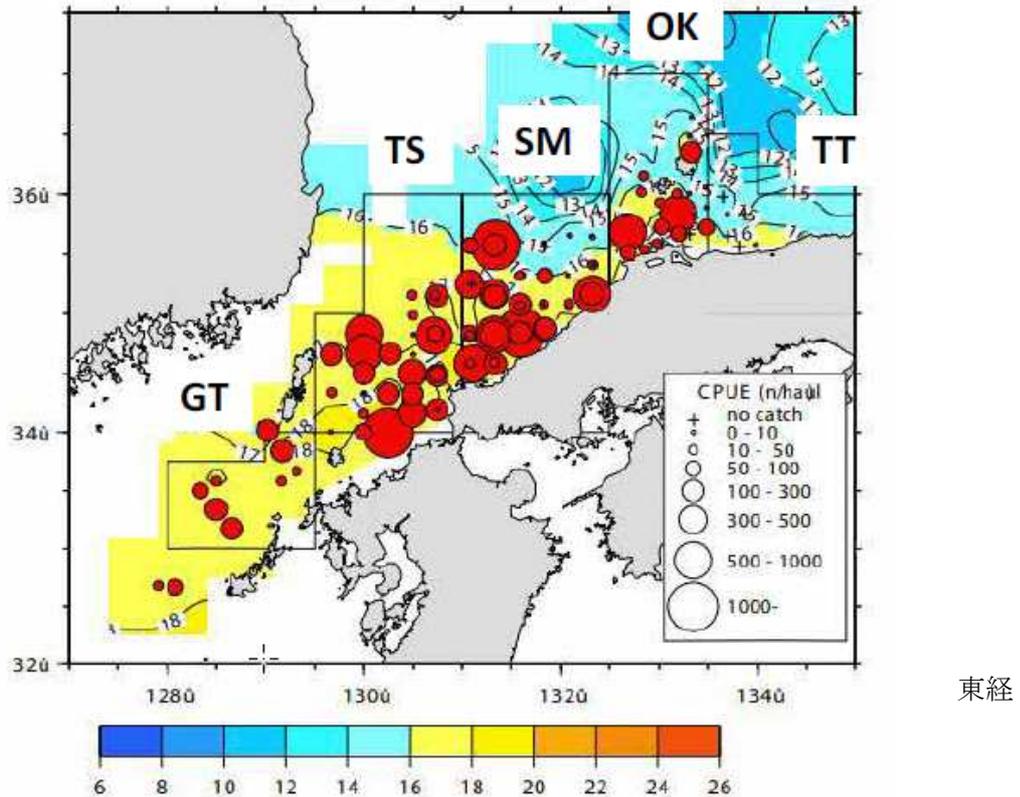


図1 マアジ新規加入量調査における令和7年のマアジ0歳魚の採集結果  
調査範囲内を次の5つの海域に分けて示した  
（五島列島海域（GT）、対馬海域（TS）、島根海域（SM）、隠岐海域（OK）、  
鳥取海域（TT））。  
円の大きさはマアジのCPUE（1曳網当たりの採集尾数）の多さを表し、  
+は採集されなかった点を表す。

（資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成）

## マアジ0歳魚の加入量と今後の漁況

マアジ0歳魚の分布量と調査海域の水深50mの水温分布を基に水産資源研究所が算定したマアジ0歳魚の加入量指数（来遊量の多さ）は、平成15年を1.00とした場合、今年は0.65となり、昨年（1.07）を下回りました（図2）。

このことから、今年のマアジ0歳魚の来遊量は、「前年を下回る」と推測されます。

マアジは小型の0歳魚を漁獲するよりも1年後に成長してから漁獲したほうが単価は高く、資源を有効に活用できます。単価の低い小型魚を多く獲り過ぎてしまうと、将来の単価の高い大型魚の漁獲量が減るだけでなく、卵を産む親魚の減少にもつながるため、過度な漁獲圧力がかからないよう適切な管理を行っていくことが重要です。

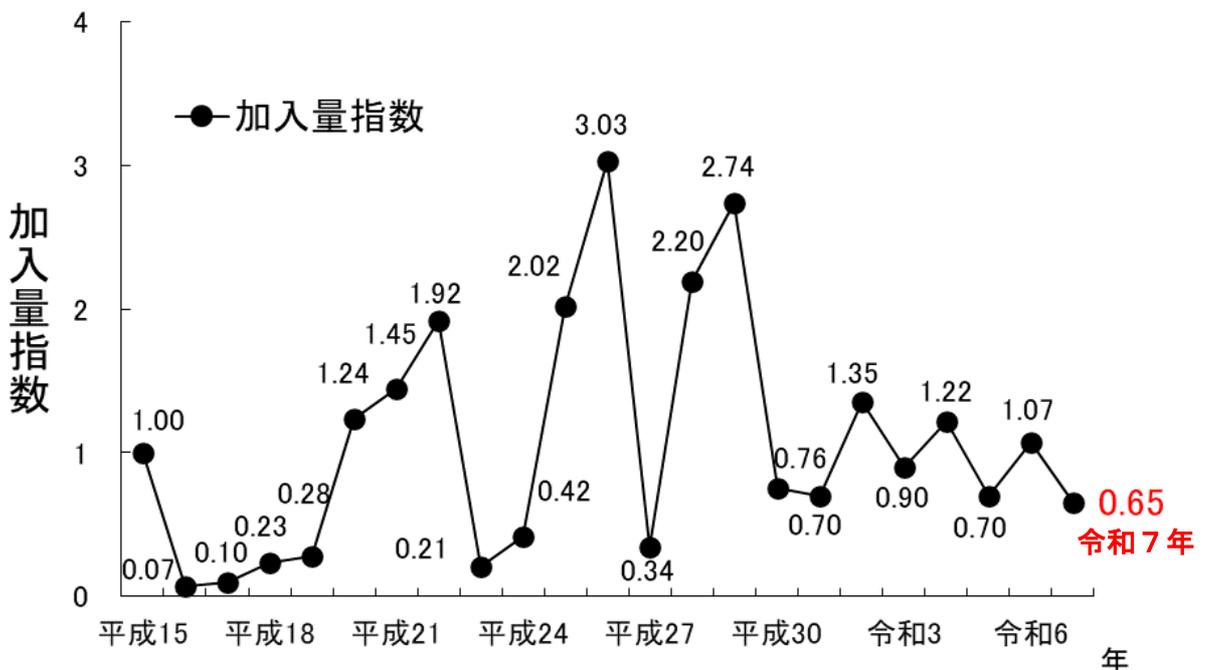


図2 マアジ0歳魚の加入量指数の動向

（資料：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所作成資料より一部抜粋）